『問題です。2000円の弁当を３秒で「安い！」と思わせなさい』



著者：山田真哉
出版：小学館
発行：2012 年 12 月 18 日

『さおだけ屋はなぜ潰れないのか？』の著者が消費税増税を「数字の知恵」で勝ち抜く！ことをテーマとして書かれた作品である。

講義形式に記載されているため、どの部分からでも読むことができ、また難しい経済用語や略語などは一切なく、身近な内容を分かりやすく解説されている。４コマ漫画も掲載されており、章末にはポイントが記載されているので内容が頭の中で整理しやすい。

第１章では『平社員会計学』というミクロの視点で誰でもすぐ役立つ会計について紹介されている。『商店街の潰れそうで潰れない店に隠された高い収益性の仕組みとは？』『「豆大福」「ソフトクリーム」「ドーナツ」を落とした時の損失の違いは？』などと身近にあるからくり的な事柄を丁寧におもしろく解説されている。

第２章は『数字力』というテーマでその効力と活用法が述べられている。タイトルにも使われている題材や『グラビアアイドルのウエストはなぜ58cm が多い？』という「数字のテクニック」を使える力について解説されている。

第３章では『社長会計学』というビジネスパーソンに対する決算書についてのゼロからの解説が記載されている。『財務三表ならぬ財務三強とは？』『飲み会の幹事に学ぶ「損益計算書」と「キャッシュフロー計算書」の違い』など「会計の世界の考え方」を中心に説明されている。簿記を習ったことがある人にとっては、借方と貸方の概念が違うのでわかりにくいところもあるが、大まかな決算書の基本体系がよくわかると思います。

最後に第４章は『パーソナル・ファイナンス』というテーマで自分自身のお金について今後の経済事情を鑑みながら解説されている。『老後に必要な本当の貯金額は？』『株式投資の第３のゲイン「優待ゲイン」』や『消費税増税前に住宅や自動車などの高い買い物をするべきか？』など筆者の考えが記

載されている。

起業教育という観点から考えると少し的が外れるかも知れないが、多角的な考え方が思わぬ発想を生むことがあり、また商業を学ぶ者として身につけておく最低限の内容を押さえておかないと新たな考え方は生まれてこないのではと考える。数字に弱い若者が増えつつあるが、この本を読み、数字に強い人間になってほしいと考える。また数字だけに振り回されずに読み取る力の育成に力点を置き、「思考力」「数字力」を養ってもらえればと思います。

起業教育研究会 企画委員
滋賀県立大津商業高等学校　商業科主任　柳垣弘樹